

人・模・様

ネパール大地震の復興支援

2015年のネパール大地震で崩壊した住宅の復興支援を続けている国際協力機構（JICA）専門家の宮野智希さん（44）＝写真＝が一時帰国した。

マグニチュード7を超す2度の地震では死者8891人、20万戸以上が全壊した。JICAは同年9月から住宅再建事業を始め、宮野さんは総計120人のチームの司令塔を務める。山岳地帯にあるゴルカ地方などの建築物は石とレンガが

主体で、耐震や防災の意識も薄かった。

住宅再建は日本からの資金に加え、住民も一定額を負担するのが基本だ。「地元政府だけでなく、まずは地域住民に強

い家を造ることの意味を考えてもらい、技術者となる石工の育成にも努力してもらった。そこに時間がかかりました」

2年近く試行錯誤が続いたが、地域の相互扶助を進める存在として「モバイルメイソン」と呼ぶ巡回責任者を置いたことで住民たちが動き始めた。現在は予定の8割近くが着工している。「環境を整えた上で、背中を二押ししてあげる。復興支援のカギはそこですね」

【森忠彦】

毎週木曜日掲載



株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル 建築開発部 次長 宮野 智希
国際協力機構（JICA）の円借款プロジェクト『ネパール緊急住宅復興事業』に従事

【関連リンク】

毎日新聞 Web 版 <https://mainichi.jp/articles/20180419/dde/014/070/016000c>

JICA HP <https://www.jica.go.jp/oda/project/NE-P12/index.html>